

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	O670400738		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	令和 2年 12月 20日	開設年月日	平成 15年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 1月 18日	評価結果決定日	令和 3年 2月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝ラジオ体操・リハビリ体操を行い、好きな歌を歌っています。出来る方には、洗濯物干しやたたみ方、食器拭き等家事を手伝って頂いています。春夏秋冬外出を行い職員の手作り弁当でピクニックを楽しみ、季節を感じて頂けるように努めております。。イベントには、手作りのお料理や職員によるボランティアの余興を楽しまれています。食事は皆様の希望を聞きながら季節の食材等を使用し、郷土料理や慣わしごと、行事にあった料理の提供し御利用者さまには好評ですが、いかに美味しい料理を提供出来るか日々検討しています。レクでは、壁飾りを作成したりカルタや風船バレー、ゲーム散歩テラスでのティータイム等を楽しまれています。また利用者様寄り添った介護を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自由で楽しくゆったりと 思いやりと笑顔で 地域とともに」を理念として掲げ、どうしたら笑顔が見られるかを職員で常に考え行動し、ゲームや余興を多く取り入れ、利用者に楽しんでもらっています。利用者は家事活動にも積極的に関わり、自分の出来る事を手伝い、また毎日の体操で体調維持に努めています。会話が通じなかった人も最近では「おはよう」「ありがとう」が言えるようになり、職員も力をもらいコミュニケーションが大事だと再確認し、痒い所に手が届くようなケアがしたいと努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 外 己 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は厨房に掲示しており、毎朝朝礼で唱和している。ケア会議等でも職員全員で唱和し、実践に繋げている。	「地域に密着し交流を深める、笑顔あふれる施設」のスローガンのもと、笑顔のない介護はないとの思いから、ゲームや余興を多く取り入れ職員は利用者との関係を深めるケアの実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーより食材を購入したり、利用者様と共に近くの公園に出掛け、地域の方と会話する機会を作っている。地域の理容師に来て頂き交流を図っている。	コミュニティセンターで行われている文化祭にちぎり絵を展示して参加したり、例年祭りの子供神輿に来てもらい交流を楽しんでいる。気軽に寄ってもらえるオープンな施設でありたいとの思いで、事業所からは回覧板で暮らしぶりや、認知症アドバイスを書いた広報紙を回している。(今年はコロナ禍にあり休止している)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方に日常的に挨拶を行い、日常会話の中で質問があれば認知症についてお話をさせて頂いている。運営推進会議においても、折に触れて認知症のお話をさせて頂き理解して頂けるよう努めている。また施設通信を町内に回覧し理解を深めて頂いている。今年は、コロナ禍で行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は2ヶ月に1回開催し、現在の事業所の取り組みや状況を報告し、参加者に意見を頂きながらサービス向上に努めている。現状は行われていない。	2ヶ月に一度運営推進会議を開いているが、コロナ禍により紙面会議になり利用状況・活動報告などに感想をもらっている。資料についてのアンケートを同封し全員から回収でき、事業所の努力が認められた内容の結果になっている。同時に身体拘束委員会からも検討事項の報告がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か不明なことがあれば、役所担当の方に都度相談している。	市には運営推進会議の議事録と資料を届けており、不明点の照会など電話で行っている。地域包括支援センターからアドバイスももらい、市担当者から利用者について相談にのってもらい事もあり良好な関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>当初より玄関の鍵の施錠をしない取り組みをしてきた。現在は、防犯の為、暗くなったら閉め朝8時には開けている。身体拘束については、社内研修で学習しており、職員全員が理解しケアに当たっている。不穏状態の方がおられたら本人の身の危険を防ぐため一時的に施錠するがすぐに解除している。</p>	<p>身体拘束については毎月の会議の中で学び、同じ研修を2回行い全員が周知している。言葉だけでは理解できない帰宅願望の強い利用者には、家族から電話があったように伝えて納得してもらうなど、話し方に角が立たないように配慮することで穏やかになり、笑顔が見られる対応を心掛けている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社内研修にて虐待について職員全員が学ぶ機会を設けている。職員同士で注意しあい虐待にならないように、言葉等に気を付けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度について研修を受け、その制度を活用できるよう支援している。実際に成年後見人制度を利用している方の対応を行い、必要ある方には提案できる。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明している。特に入所や退所する際の注意点やリスクについては、詳しく説明した上で同意している。改定時も文章を出して、同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の開催で、(玄関に「代表者への手紙」を設置し)意見や要望を出せる環境作りに努め、すぐ改善できるよう会議で話し合いを設け運営に反映させている。またイベント参加時に、意見、要望を聞ける機会を設けている。家族の参加は少ないが、参加して頂ける様声がけをしている。</p>	<p>運営推進会議やイベント参加時に家族等の意見や要望を聞き、会議で改善策を話し合い反映させている。家族等とも連絡を密にして何事も隠さず知らせている。年末には一人ひとりが電話をして家族等との絆を確かめてもらい「心配はしていない、おまかせしていますから」との声を沢山もらい一年を締めくくっている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時職員とのコミュニケーションを図り、毎月のケア会議では職員全員が発言出来るようにしている。又、発言した職員の意見、提案を話し合っ出来ることは、改善するよう努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は、毎年個別面談の機会を設け、各自の希望等、事業所としての期待等を話し合っている。さらに代表者と面談し個々人の努力や実績を把握している。法人全体で努力者を表彰している。個人の力が十分発揮でき、向上出来るよう努めている。各自目標を設定し、半年ごとに自己評価と管理者評価をしている。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の内部研修に職員全員参加する様にしている。機会があれば外部研修にも参加出来るように配慮している。また資格を取得できるように報酬を見直し、推進している。</p>	<p>年間計画に基づき内部研修を受けている。今年度は利用者に笑顔になってもらう、楽しんでもらう事に集中した取り組みで、レクリエーションの持ち方や、行事にまつわる習わしなどを知ることに力を入れている。職員に対して管理者は個別にこまめに面談し、ケア会議で良い所は全員で共有して力量アップにつなげ、資格取得にも力を入れている。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>米沢市グループホーム協議会や、地域密着連合会に参加し他事業所との交流し良いところを取り入れるよう取り組んでいる。外部研修に参加する機会を設け、他事業所の方との交流を図っている。参加によってサービスの質の向上に努めている。</p>	<p>新たに出来た市地域密着型サービス事業者・管理者連絡協議会にも参加している。他事業所との交流を通して職員の気付きは大きく、個人個人のレベルアップにもつながりサービスの質の向上に役立っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>必ず実態調査に行き、サービス利用をする前にご本人と面談し、要望や生活習慣を把握し不安などに対し十分話し合い、受け入れてもらえるように心がけている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申込時や実態調査時にご本人とは別に、(サービス利用前)にご家族様の要望や不安などを聞き、思いに添ったサービスや対応が出来るように努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の思い、実情など、今のような支援が必要なのか、基本情報にまとめ、また職員で話し合いを行ってサービスに繋げている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物干しや、たたみ方、掃除等、ご本人が出来る事や以前から行っていた事をご家族から話を聞いて)行っている。お互いに感謝の言葉が出てくるような環境作りを心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年は、面会時など一緒にお茶を飲んで頂き、他利用者様とも会話をして頂いている。行事に参加して頂き協力を得ている。今年はコロナ禍で担当者会議のみになっている。電話では随時状況を伝えたり、困りごとを相談して協力して頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆正月等はご本人、ご家族の意向を踏まえて自宅に帰る支援をしている。(軽度の方には)行きたい所や思い出の場所等をお聞きしながら出来るだけ出掛けられるように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様に楽しく過ごせるようにレクを通して利用者同士の交流を図っている。職員が(同士での情報の共有や)、利用者様同士の中に入り一緒に会話をし関係性の強化に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方やご家族に不安なことがあればいつでも立ち寄って頂けるように、不安な事があれば連絡して頂ける様声掛けをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に、又は状態変化時に担当者会議を設定し、ご本人、ご家族様の意向を確認している。意思表示できない方には、ご本人の意向を汲み取っている。	毎日の生活の中、レクリエーションの途中やお茶を飲みながらの少しの時間でも、これまでの生活の様子等を聞いている。訴えの困難な方には、一生懸命話しかけるよう担当者に伝えて、今まで会話が通じなかった方も最近「おはよう」「ありがとう」と言うようになり、職員も力をもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際、プライバシーに配慮した生活歴等をお聞きし自宅訪問したり、以前のサービス利用状況を把握している。入居後は関わりの中でご本人やご家族様にお聞きしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活で、利用者様一人ひとりの心身状態を観察記録している。本人の出来る力を引き出せるように心掛けている。職員全員が共有出来るようにケア会議で話合っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、更新時、状態変化時に介護計画書を作り、課題、目標、サービス内容をご本人、ご家族様に確認して頂き意見を伺っている。	プラン作成時は、担当者のケア記録をケア会議で全員で話し合い、変化を見ながら、今出来る事を長く続けられるように利用者の生活リズムをしっかりと整え、行動の中から残存能力を引き出し、維持出来るようプランに組み入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に常時毎日の朝礼で話し合いながら、ケア会議にて気づき、工夫等を共有し、統一したケアが出来るように努め見直して計画書の作成時に活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭や運動会、夏祭り等、地域の行事に積極的に参加している。今年はディスタンスに配慮して文化祭のみであった。散歩に出掛ける際に気軽に声を掛けて頂けるような環境作りに努めている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医には月1～2回の往診に来て頂いている。利用者様について気付いた事や、変化があればご家族と話し合いながら電話相談をし指示を仰いでいる。	かかりつけ医から利用者全員に定期的な往診があり、受診日の朝にFAXで利用者のバイタルを情報提供してから診察してもらうなど、日頃から連絡を密にしている。受診結果は家族等とも共有している。服薬管理は複数の職員でチェックしてセットし、利用者が服用するまで確認している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がない為、利用者様について、気付いた事や変化があれば、かかりつけ医に相談しアドバイスを受けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は週に1度はお見舞いに伺い、ご本人の状態把握を行なっている。退院に向けての面談、退院後の留意点等を病院関係者より詳しく説明を受けるようにしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、事業所側で対応できるケアを入所時にご家族様に説明しているが、更に充分に説明し、対応できる範囲を理解して頂きご本人にとって良い環境等を医療関係者と共に話し合っている。</p>	<p>「看取り指針」に基づいて契約時に重度化した場合の対応について家族等に説明し、理解を得ている。身体状況の変化に応じて家族等と話し合い、主治医の紹介による入院や他施設に移行など希望に沿えるように支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命講習を受けており、急変対応マニュアルなども活用している。社内研修においても研修課題となっており、全職員が受ける体制になっている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を実施しており、防災職員の方々に指導を受け、御利用者様にも参加して頂いている。誘導の方法避難経路など、全職員で確認している。終了後、防災職員の方々に講評を頂いている。</p>	<p>今年度は防災会社の協力を得て7月と10月に避難訓練を実施しており、利用者は常備してあるヘルメットを着用して参加し、訓練後の講評から出た課題を検討している。ミニ防災と称してろうそくの明かりでおにぎりを食べたり火事ぶれの練習をするなど、日頃から防災意識を高めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は外部で個人情報漏らさないよう保護に努めている。日々の関わりの中でのご利用者様の誇りやプライバシーを傷付けないように、言葉使い、態度には十分気をつけている。接遇研修等を受けている。</p>	<p>職員は利用者の家族の写真や個別的な話しは居室でするなど個人対応を心掛けており、毎月発行の「ふいりあ通信」は外部にも配布するためプライバシーに配慮している。元気な利用者が多く家事全般への手伝い参加があり、「ありがとう」のことばや笑顔から満足を感じ取れる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択枠を提案し自己決定出来るように心掛けている。意思表示が出来ない方であっても、表情、全身の反応を確認し、本人を把握する努力をしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり過ごせるような目安としての流れはあり、日課として生活しているが、体調や気分により困難な場合はご利用者様のペースに合わせている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えをご利用者様に選んで頂いている。外出時は特に希望をお聞きしながら、おしゃれを楽しんで頂いている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に何が食べたいか聞きながら栄養バランスを考慮し、提供している。外部総菜を利用し季節に合った栄養バランスの良い食材を提供している。朝夕のみそ汁の具材を利用者と共に準備したり、手作り食は利用者の希望を取った献立をしている。	業者から届いた真空調理した栄養バランスの良い主菜・副菜と、事業所で用意した主食・汁物の食事を提供している。月1回のリクエストメニュー日には郷土料理や行事食を取り入れて手作りし、ホットケーキや笹巻などのおやつ作りは利用者が主役となり楽しい食事となっている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に水分摂取量、食事量を記入し把握している。ご本人の嗜好や生活習慣、身体状態に合わせた飲み物や調理形態で提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい歯磨きの声掛けをしている。一人ひとりの状態に合わせて口腔内洗浄・義歯洗浄のケアを行い清潔を保っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握して声かけにて誘導している。(排泄行為を活用し)、下肢筋力強化しADLの向上に努め、ご自分の力でトイレ排泄が出来る様に支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導をしている。自立排泄の方が多く維持したいという意識が高く、自ら廊下を往復して歩行訓練し下肢筋力強化に励んでいる。繊維質の食物や朝のヨーグルト摂取・体操を日課にし、便秘予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らず繊維質の物をメニューに取り入れたり、毎朝ヨーグルトを提供している。水分を取り毎朝ラジオ体操、リハビリ体操を行い体を動かして頂いている。起床時の水分摂取は氷水の提供もしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の目安で入浴を行っている。ご本人の体調や気分に合わせて曜日調整したり、出来るだけ希望に合わせてゆっくり入浴して頂ける様に時間や順番に配慮している。	設置してある一般浴槽は深めで湯船に肩までつかって温まり、なつかしいと利用者に好評である。週2回を目安に主に午前中の中の入浴で職員は1対1で介助し、安全面に配慮しながら気持ち良くゆっくり楽しんでもらえるよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や体調に考慮しながら、午睡の声掛けを行っている。午睡されない方は、ご本人の生活習慣で好まない場合は、ホールにて職員と過ごして頂く等、個人に合わせて対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化が見られた場合は、処方時の薬の説明書を活用し職員全員で確認理解するように努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きな事を尊重し、役割を見つけ力を発揮できるような支援をしている。また、感謝の言葉や労いの気持ちを伝えている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春夏秋冬に車で外出外食を行い、気分転換や季節を感じて頂いている。近くの公園への散歩や地域の行事にも積極的に参加し、外出の機会を作っている。帰宅願望のある方には、一緒に外を歩く等を行い、納得して頂くこともあった。	コロナ禍で自粛していた時期は近くの公園への散歩や外でお茶を飲むなど外気に触れる機会を作り、気分転換を図っている。感染予防対策をしてドライブ外出を再開し、希望のコースに手作り弁当持参で出かけ利用者に喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時の支払いの際には預かり金を渡し、出来るだけ本人に支払って頂く様に支援している。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自由に電話は使用出来るようにしている。希望があれば、いつでも対応できる状態になっている。手紙のやり取りを行っている方は現在いないが、希望があれば、対応出来る。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには皆様に楽しんだ、思い出の写真を掲示している。また、皆様が行った塗り絵や季節の壁飾りも、掲示している。イベント時はホールを飾りつけし、季節を感じて頂いている。</p>	<p>ホールに展示している季節毎の壁飾りは地区の文化祭にも出展し、利用者も見学に行き制作の励みになっている。日課の体操で身体を動かし、インターネットで新しく取り入れたゲームや脳トレーニングを楽しむなど、利用者が自然に集まり皆の憩いの場所となっている。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関と廊下に椅子を置いている。気の合う方と雑談したり、お一人でゆっくり過ごせるスペースを確保している。</p>		
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居して頂く際、居室には今まで使用してきた馴染みの物や思い出のあるものを、持ってきて頂くようにお話している。ご本人にとって落ち着いて過ごせる居室になる様、ご家族様と相談し協力を得ている。</p>	<p>居室はタンスが備え付けてあり、持ち込みは自由で家族等と相談しながら居心地良く過ごせるように配置している。年末には利用者と一緒に相談しながら飾りつけを新しい物に変えて、新たな気分で新年を迎えている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関・トイレ・廊下・浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。居室内の動線の確保に対応出来るよう、整理整頓を行っている。</p>		